

東日本大震災復興支援プロジェクト

第11回活動報告



地元住民との会話によって最新のニーズを聞き取ります。

約

4ヶ月ぶりとなった第11回活動は、職員6人が参加して宮城県東松島市の新東名地区で実施しました。

昨年から交流のあるご家庭を中心に市街地を巡回して、花の苗やプランター、防護マスクなどを提供しながら被災者の方々のお話に耳を傾ける傾聴活動に取り組んだ他、老人介護施設の敷地内に土を運んで花壇を新設するなどの活動も実施しました。

この他にも、震災の教訓を生かしてボランティアと現地の方々によって共同で整備された避難経路や沿岸部の視察も行なっています。

震災から1年以上が経過したことや、高速道路の無料化が終了した影響などもあり、現地で活動するボランティアの数は明らかに減少しており、今後ますますこの傾向は続くものと思われれます。

一方で、現地の方々には口々に『震災と被災地のことを忘れないでほしい』という意味のことを口にされます。

一年が経ち、我々に求められるニーズは明らかに変化してきており、今後は今まで以上に人々との交流を重視した活動に取り組んでいく必要があります。

『活動の概要』

【活動日】平成 24 年 4 月 7 日（土）

【活動地】宮城県東松島市

【参加者】鈴木大亮（総合戦略室）、佐藤浩市（経理システム課）、百瀬琢寛（農業支援室）、鈴木伸明（大山支所）、阿部奈緒（西郷支所）、齋藤菜穂子（西郷支所）計 6 人。（他に山形大学から学生・職員ら計 5 名が参加）

【主な活動内容】花苗等の提供、植え付け、花壇整備、傾聴活動、現地視察



現地の方々との交流が一番の目的です。



デイサービス施設に防護マスクをお届けしたついでに、花壇の新設もお手伝いしました。



ガイドを受けながら、震災を教訓に作られた避難経路を全員で登りました。



地元の方からいただいた在日米軍服を身にまとい、お昼ご飯までごちそうになりご満悦の参加者。

次回活動のご案内を参加登録者の皆さんにメールで送付しています。いつか行ってみたいという方は、参加者登録をお願いします。鈴木（総合戦略室）までお気軽にどうぞ。